

# 令和5年度 第1回 学校運営協議会 及び コンプライアンス委員会 報告

1 日時 令和5年 6月6日(火) 9:30~11:05

## 2 出席者

運営協議会：運営委員5人、本校教職員10人

コンプライアンス委員会：運営委員会5人、PTA副会長、本校職員13人

## 3 会議次第

- (1) 開会
- (2) 会長選出、承認
- (3) 学校経営について
- (4) 授業参観
- (5) 協議
- (6) 不祥事向けての取り組みについて
- (7) 協議
- (8) 閉会



## 4 協議等記録

### (1) 本年度の学校経営計画について

校長：運営委員の役割、学校ランドデザインについて説明

※ 参加した運営委員から、学校経営計画等について承認が得られた。

### (2) 運営委員からの意見・感想・質問

(委員A)：以前より生徒の数が少なくなった。聾学校の存続という意味で重たい問題である。人工内耳の子どもが増え、大人の聾者の社会にも将来影響があると思う。同じ聞こえない仲間なのに、手話を使うグループと人工内耳をつけ手話が分からないグループに分断されて、社会や行政に要望していく力が弱まってしまわないかと非常に心配している。

(委員B)：授業の様子を見て、子どもたちが思った以上に積極的に授業を受けていた。教育とは大事だなと思った。特別支援学校が国際的には人権的に問題があるという指摘がある。この学校がなぜ必要なのかというアピールが少ないのではないかと。この学校の必要性をもっとアピールしたい。

(委員C)：静岡県では、早く聴覚障害を発見し人工内耳や補聴器を付ければ、聾学校は必要ないという動きがある。しかし、実際に早期発見した後、療育を担っているのは聾学校である。病院や医師に信頼してもらいながら、こちらの論理的な根拠をはっきり示して、病院と連携していくことが大事である。今は、パンフレットのQRコードで簡単にコンタクトをとる時代である。その時に、この学校の内容がわかりやすく、信頼がおけるものであることが必要である。先ほどのランドデザインを見たときに、この学校はおもしろそう、相談してみよう、見学してみようと思わせるようにする。ここが課題だと思う。昔は難聴と聾に分けられたが、人工内耳を付ける子どもが増え、今は難聴の子が増えたと考えると良い。難聴の子に対して手話も必要だし、日常会話では音声言語も必要だが、

昔と変わってきているということをつかんだ上で聾教育をどう変えていくか考えていく必要がある。

(委員 D) : 幼児期から小、中と言葉についてきめ細やかな指導をしていると思った。職場の年配の聴覚障害者の方が、助詞の使い方がよくわからないということを行っていることがある。この方たちの時代と今とは、いろいろな機器が違っているので状況が変わってきていると思う。

学校の中ではいろいろな配慮、支援、機器などを使って情報保障がされているが、社会に出ると健聴者が多い中に、聴覚障害者が何名かいるという状況で、環境の変化に戸惑っている様子がある。たとえば、飲み会や雑談の時に苦痛だという悩みがある。仕事の中でも、業務の一連の流れをすべて知りたいと思っているが、情報の保障がされていない。企業側の情報保障の仕方などを知る機会があるといいと思う。

(委員 E) : インクルーシブ教育と特別支援教育のかかわりは本当に重いテーマだと思った。本校でも取り組んでいる居住地の学校や園との交流は、どちら側の勉強になる。幼稚部はかなりやっていると思うが、小中学生もなるべく多く交流を行って子どもたちを鍛える場にしていけるとよい。

学校のグランドデザインにあった主体的な確かな学びについてだが、1時間1時間の授業で考えると非常に大変だと思う。研修の中でも大きなテーマになるのではないか。主体的な学びが授業の中でどのように保証されているのか、どのように育成しているのか考えたい。また、この学校の授業と普通学校の授業とでは何が違って何が同じなのか、こういう議論を進めていくのもよい。突き詰めていくことでこの学校の必要性とか存在意義とかがはっきりすると思う。1時間1時間の授業が勝負だというのが、授業の中で本校の存在意義とか利点がアピールできるとよい。

学校に「聞こえの相談は本校に」の看板がある。広く聴覚で困っている人たちの拠り所になってほしいと思う。

\*いただいた意見を学校運営に反映させていきたいと思います。

(3) 不祥事根絶に向けての取組について (生徒指導課長：別紙資料を基に説明)

力を入れて取り組むこと

生徒指導に関わる共通ルール

(4) 取組についての御意見・御感想 (及び御質問)

(委員 B) : 耳の不自由な生徒とその家族には、電話は使いにくいのではないか。メールか LINE が多いのではないか。SNS はどうか。

(校長) : 高校では、生徒と教員の個人的な付き合いが LINE を使った連絡が原因になることが多い。本校では、一斉配信メールを使っている。メールもできるし、欠席連絡も入れることができる。

生徒は、学校のヤフーメールで連絡を取るようになっている。このメールは、教員全員が見ることができ、個人的なやり取りができないようになっている。

(委員 A) : 今、1対1の教室が増えている。パワハラ、暴力防止のために防犯カメラを設置しているか？

(校長) : つけていない。パワハラや暴力は起こりうる。本校は廊下の窓が大きく、通ると何をしているか見える。

(高等部主事) : 異性に対する生徒指導では、複数教員で対応することになっている。見えるところで

指導をする。呼び方については学部会で共有している。

(中学部主事)：3階に生徒一人、教員一人にならないようにしている。小のグループ学習が教室を使うようにしたり、主事が巡回したりしている。

\*子どもとも教員ともコミュニケーションを大切にして、心の繋がる教育を大切にしていきます。

(今後の予定)

第2回 学校運営協議会 10月26日(木)

第3回 学校運営協議会 2月22日(木)